

単元計画と指導構想（全9時間）

| 棕鳩十の動物物語を読んで、ショーウィンドウで推薦しよう                                            |                                                                  |                                                                   |                                                                            |                                                                          |                                                                                |                                   |
|------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 【第1次】（読む目的を明確に持つ段階）（第1時）                                               |                                                                  | 【第2次】（見通しをもとに、場面の様子を読み取る段落）（第2～6時）                                |                                                                            |                                                                          | 【第3次】（言語活動の目的を達成する段階）（第7～9時）                                                   |                                   |
| 棕鳩十のブックトークをして、本への興味を持たせる。ショーウィンドウを提示し、特徴やよさ、表現する内容について知る。（ショーウィンドウモデル） | ショーウィンドウの構成要素を確認し、「大造じいさんとガン」の学習計画を立てる。（作者紹介、あらすじ、魅力的な場面、おすすめの文） | 教材文「大造じいさんとガン」を読んで、ショーウィンドウを作る。                                   |                                                                            |                                                                          |                                                                                |                                   |
|                                                                        |                                                                  | 第2．3時<br>物語の全体を読むためにじいさんと残雪の立場を明確にしながら、あらすじをとらえる。【時・場所・人物・相互関係など】 | 第4時（本時）<br>「大造じいさんとガン」を読んで、一番心打たれた場面について話し合い、書きまとめる。【場面、理由、引用する文、魅力を伝える言葉】 | 第5時<br>「大造じいさんとガン」の山場を考えさせ、そこで出た疑問について話し合う。一人ひとりの読みを比べながら考えを深め、自分の考えを作る。 | 第6時<br>「大造じいさんとガン」に対する読者としての自分なりの考えと作品の魅力を伝えるおすすめの文を書きまとめる。【作品への自分の考え、おすすめの文例】 | 第7時<br>あらすじと一番心を打たれた場面について書きまとめる。 |
| 並行読書（棕鳩十の動物物語を選んで読む）                                                   |                                                                  |                                                                   |                                                                            |                                                                          |                                                                                |                                   |

単元目標

- 「ショーウィンドウ」を作って推薦するという目的のために、大造じいさんと残雪の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。（C 読むこと エ）
- 「ショーウィンドウ」を作って推薦するという目的のために、本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（C 読むこと オ）

単元について

（1）児童について

本学級の児童は、「のどがかわいた」の学習の中で、登場人物の関係の深まりや心情の変化を読む学習をした。人物との関係は捉えることはできるが、関わりの中で変化していく心情やその要因などを読み取る力は十分育つまでに至っていない。

（2）単元構成について

第1次において、読む目的を明確にして、単元の見通しをもたせる。子どもたちが知っている本、「ごんぎつね」で作ったショーウィンドウを使って、『推薦すること』を知る。児童に興味、関心をもたせた上で、ショーウィンドウに載せる項目を確認し、何をどのように読めば書けるようになるのか、学習計画を立てる。読む必要感を持たせ、主体的に学習に取り組む動機付けを図る。

第二次の読みの学習において、大造じいさんと残雪の立場を明確にしながら、あらすじを捉えるようにする。あらすじを捉えた上で、大造じいさんの残雪に対する態度と心情の変化について話し合う活動を行う。また、大造じいさんの心情の変化に影響を与えた残雪の行動や姿に着目させ、何が大造じいさんを変えたのか、考えを深めるようにする。優れた叙述に目を向け、そこから考えたことについて考えを交流するようにする。一番心打たれた場面を見つけ、推薦の根拠となる場面や叙述などについて書きまとめる。おすすめの文（推薦文）の項目では、お話の内容と自分の考えを重ねたり、比べたりして読み、自分の考えを書きまとめるようにする。

第三次では、「大造じいさんとガン」で学習したことを生かして、自分で選んだ本のショーウィンドウを作り、4年生に本を推薦する。ショーウィンドウと本を読み、その感想を伝え合うようにする。

（3）指導について

第一次においては、棕鳩十作品についてのブックトークを行い、本教材および並行読書への意欲を高める。教師が既習教材「ごんぎつね」で作成したショーウィンドウのモデルを提示し、学習のゴールがどこにあるのか視覚的に捉えやすくする。各項目の書きぶりについても手本となるような表現を入れ、学習の後半に出てくる語彙の指導へと繋がるようにする。そして、「棕鳩十の動物物語を読んで、ショーウィンドウで推薦しよう」という学習課題を立て、「大造じいさんとガン」で何を学ぶのか、学習計画を立てる。

第二次においては、あらすじを捉える活動では、大造じいさんと残雪を対比させながら話の大体をつかめるようにする。一番心を打たれた場面やおすすめの文を書くときには、書き方のモデルを提示し、引用、魅力を伝える語彙や文例についての指導を行い、第三次に繋がるようにする。おすすめの文を書く前に、物語の山場について触れ、疑問について話し合い、自分の考えをすることができるようになる。

第三次においては、並行読書で選んだ本のショーウィンドウを書く。第二次で「大造じいさんとガン」でショーウィンドウのパーツ作りをしたことを生かして、見る人が読みたいと思うように書く。そして、本と一緒に展示し、4年生に推薦することで、完成した作品が他の友だちに評価され、役に立っているという達成感を味わわせる。

単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「棕鳩十の動物物語を読んで、ショーウィンドウで推薦する」ことを位置付けた。

ここで、取り上げるショーウィンドウは、4年生に対して、棕鳩十の動物物語の中で自分が最も気に入った作品を推薦するために作成する。このショーウィンドウの中には、①あらすじ②一番心を打たれた場面③おすすめの文（物語に対する自分の考え）④作者についての4つの項目を位置付けた。

そのために、人物相互の関係と心情について叙述を基に適切に捉え、自分と重ねたり、比べたりしながら考えをまとめる必要がある。また、自分の考えを作る上で、疑問を解決していく活動をする必要がある。

したがって、推薦文を書くことで、「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」（C 読むこと エ）と「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりすること」（C 読むこと オ）を取り上げて指導するものである。

本時目標

- 本を薦めるために一番心を打たれた場面を見つけ、魅力を伝える言葉や引用文を活用しながら書くことができる。

学習の展開（4／9）

| 主な学習活動と内容                                                                                                                                                                           | 指導の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 前時までの学習を振り返り、学習計画を基に本時の見通しをもち、めあてを確認する。                                                                                                                                          | ○ ショーウィンドウのどの項目を作るための学習なのかを確認し、学習の見通しをもたせる。                                                                                                                                                                                                                                                           |
| めあて 一番心打たれた場面を決めて、「大造じいさんとガン」を薦めるための文を書きまとめよう                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 2. 一番心を打たれた場面を伝える文の書き方を知る。<br>（1） 書きのモデルを提示し、効果的な書きについて話し合う。<br>・ 書きのモデルの中にどのようなことが書かれているかについて話し合う。<br>・ 魅力的な言葉や引用があるのとないので伝わり方が異なることに気づく。<br>（2） 引用と魅力を伝える語彙（評価語彙）のよさに話し合う。        | ○ 一番心を打たれた場面について書き表した文章のモデルの提示を工夫する。（内容が十分なものと不十分なもので比較させるようにする。）<br>○ 読みの視点を確認し、一番心打たれた場面について場面と理由を書きまとめさせておく。<br>【読みの視点】<br>・ 登場人物の心情がよく分かるところ。<br>・ 登場人物の関係がよく分かるところ<br>・ 場面の様子がよく分かるところ。<br>○ 好きな場面についての根拠を「物語の展開や人物の心情」、または「お気に入りの描写や表現の工夫」、どちらか一方は必ず記述するようにする。<br>○ 評価語彙の例を示し、文章中で使用できるように指導する。 |
| 3. 自分で選んだ一番心を打たれた場面について話し合う。<br>（1） グループで交流する。<br>・ 多様な考えを自分の考えと比べながら聞く<br>・ その場面を選んだ理由を交流し、自分の考えを作ったり、書き加えたりする<br>（2） 全体で交流する。<br>・ グループで出た考えを報告し、多様な考えや友だちの書き方のよさを知り、自分の書きの参考にする。 | ○ 友達の発表と比べながら聞き、自分のよさと友達のよさ、それぞれに気付くようにする。<br>○ ショーウィンドウに書く時、より伝わるようにするには、どう書き表したらよいか話し合わせるようにする。<br><br>○ 全体交流を踏まえて、自分の読みの確認し、自分の書きにつながるようにする。                                                                                                                                                       |
| 4. 場面について書きまとめる。                                                                                                                                                                    | ○ 魅力を伝える語彙の使い方やそのよさに気付かせる。                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 5. 本時のまとめをする。<br>（1） 一番心打たれた場面の文を発表する。<br>（2） 次時の予告をする。                                                                                                                             | ○ 引用や評価語彙を適切に活用し、書きまとめた児童を意図的に指名して発表させる。<br>○ 友達のおすすめの文の書き方のよさに気付かせる。<br>○ 次時の見通しと意欲の継続を図る。                                                                                                                                                                                                           |